

中心テーマ	京都の持つ環境先進性、文化精神性を日本人の暮らしと心に取り戻すこと
-------	-----------------------------------

検 討 事 項	部会議論からの「キーワード」	ミ ッ シ ョ ン	成 果 目 標	参 考
<p>京都らしさを支える気候や環境を守るべく、「低炭素社会」を実現するための京都ならではの先進的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低炭素社会、循環型社会、生態系保存 ・ 京都議定書誕生の地、京都 ・ 化石エネルギーからの転換 ・ 太陽光発電など各種技術の利用 ・ 環境にやさし交通体系の創出 ・ 社会経済システムや意識の転換 ・ エコロジー型新産業システムづくり ・ 自然と共生する自然回帰型とハイテク駆使型 ・ 地域の特性を生かし、地域ごとにメリハリのある環境施策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再生可能エネルギーを活かしたまちづくりを進めること ・ 電気自動車等、走行時にCO₂を排出しない移動手段を普及させること ・ 過度な自動車利用の抑制と公共交通への利用転換を推進すること ・ 産業部門におけるCO₂排出量を削減するとともに、低炭素社会に適応できる産業構造への転換を促進すること ・ 家庭や業務部門、運輸部門におけるCO₂排出量を削減すること ・ CO₂吸収源である森林の保全整備を進めること ・ 農林水産業をより一層低炭素型に移行すること ・ 農林水産物流通の低炭素化を進めること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅、公共・民間建築物への太陽光発電の設置数が倍増すること ・ バイオマス、小型水力などを活かしたエネルギー自立分散型のモデル地域が実現すること ・ 電気自動車等の普及率が日本一になること ・ 地域と連携したモビリティ・マネジメント等が府域の全市町村で展開されること ・ 地域の交通環境を支える人材が5年間で120名程度養成されること ・ 効果的なTDM施策等の実施により自動車分担率が低減されること ・ 中小企業を含む全ての企業において、省エネ等によるCO₂削減が行われるとともに、省エネ・脱炭素化等の新技術を有する企業が数多く勃興すること ・ 全ての家庭や職場で省エネ・省資源行動が行われていること ・ 「京都モデルフォレスト運動」など府民参加による森林づくりが進展すること (モデルフォレスト⑩年度末実績) ○大学、企業と連携した森づくり：20ヶ所 ○ボランティア団体数：58 団体 ・ 農林水産業生産に必要な施設・機器の省エネ化や自然エネルギー利用が進展すること ・ 地産地消の取組を展開すること ・ 府内産木材を使った住宅、家具、木工品等への利用が拡大すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化石燃料から転換するためのバイオマスの利用 ・ 小規模水力発電の利用 ・ 中山間地域におけるエネルギー自給モデルや都市型地域における歩いて暮らせるまちづくりなど、地域特性に根ざした政策を推進すべき ・ 間伐などの森林整備の推進 (例) ・ 燃料電池、LED照明 省エネ・低公害型機種 の導入 ・ 太陽光発電パネルの設置 ・ 農業用水路への小水力発電施設の設置 (例) ・ 地元農林水産物の学校や病院、高齢者福祉施設等の給食利用 ・ 地元農林水産物の地域小売店・量販店での販売 ・ 農林水産物の直売 ・ ウッドマイレージCO₂認証制度の普及

検 討 事 項	部会議論からの「キーワード」	ミ ッ シ ョ ン	成 果 目 標	参 考
<p>京都の「もったいない」「しまつ」といった先人の知恵・価値観や、育んできた文化の大切さを再発見し、持続可能な産業や生活に活かす「循環型社会」（水循環を含む）を実現するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を保全しながら経済も回る、足を知る「知足経営」 ・省エネ、リサイクルなど身近な市民行動 ・2050年時点で排出量を80%削減したとしても、経済は回り、環境も守られているという両立 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業活動や家庭における省資源化や資源の循環利用を促進すること ・地域の資源を活用しながら、自然循環が可能な範囲での産業や消費生活を営むようにすること ・農林水産業をより一層資源循環型に移行すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物について、分別収集の仕組みが浸透すること ・資源ごとに最適な循環システムが構築されること ・府内産木材や農水産物の地産地消のしくみが確立すること ・木のある暮らしが定着すること。 ・地元産野菜や特産品の購入が習慣化すること ・有機農業や環境にやさしい農業が普及・拡大すること ・バイオマスの活用が進展すること 	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家畜糞尿や食品加工残渣等の堆肥化 (例) ・間伐材等のペレット・薪炭化 ・食品残渣の堆肥 ・家畜糞尿や食品残渣のバイオマス発電利用
<p>四季折々の自然の変化を心や五感で体感し、人々の暮らしの中に季節感を取り戻すなど、自然や環境を大切にし、共生する風土づくり・人づくりのための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と共生し、文化を育んできた京都 ・地域が大事にするものを、守り・発信し・子ども達に繋げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然との共生を大切にするライフスタイルの拡がりを支援すること ・生物多様性を保全すること ・澄んだ空気、美しい川や海辺などの快適な環境を実現すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・府内各地において、自然と共生する里山や里海づくりの活動が展開されていること ・府内各地において、希少種など地域固有の野生生物の保全活動が展開されていること ・大気、水等の環境基準が達成されていること 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域への定住を促進するため、医療、教育環境を整えるとともに光ファイバー等の基盤整備を図るべき
<p>生産活動をはじめ地域に住む人々の営みにより守られ、食料のみならず、きれいな水や空気を供給する「命の里」である農地や森林を、府民全体で守り・支えていくための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「命の里」、京都の美しい森はCO2の吸収源 ・里山、「命の里」といった理想とする地域を育み、体験する取組 ・都市と農村の交流から、農山村の文化が資源となり地域を支える「文化多様性」 	<ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村地域の存在を、府民自らが自身の生活に大きく関わっていることを理解できるようにすること ・農山漁村地域を守り支えるための府民運動を展開すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市住民等が農林水産業や農山漁村地域のすばらしさや大切さを実感できるようになること ・地域住民のみならず、農林水産関係団体、NPO、学校や都市住民等が参画して協働で行う農地や森林などの保全・再生活動が普及・拡大するようになること 	<ul style="list-style-type: none"> ・農林漁業体験活動や農山漁村地域の祭礼・行事へ参加できる取組

検 討 事 項	部会議論からの「キーワード」	ミ ッ シ ョ ン	成 果 目 標	参 考
<p>伝統文化、祭り、芸能、旬の食材、和装、日本建築など京都ならではの文化に誇りを持ち、守り育て、次の世代に伝承していくための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化の継承には、今の生活様式・ニーズに合ったプラスαが必要 ・ 千年以上守り続けられている「権威」が京都の誇り ・ 他の文化を独自に自分たちのものにしてしまします京都文化のダイナミックさ「不易流行」 ・ 地域がアーティストを育てる ・ 「型」を大事にすることでアートが創出される ・ 消えてしまう芸術を残す ・ 伝統文化の稽古は人徳も学べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 府民の誰もが、文化活動に参加すること ・ 世界から憧憬される京都ならではの上質文化、文化財を未来に継承すること ・ 世代を超えた府民が京都文化の価値を知るようにすること ・ 府民と芸術家が共感・共鳴して新たな文化芸術を創造すること ・ 地域に伝わる伝統文化の継承と発展を支援すること ・ 府民が、新鮮で生産者の顔が見える府内産農林水産物やその加工品を入手しやすくすること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 府民の文化活動への参加率 100% ・ 世界文化遺産、世界無形文化遺産の登録数が増大すること ・ 京都文化の神髄を誰もが身近に体感できるようになること ・ 地域が生んだ文化芸術が生まれていること ・ 伝統文化の継承者が確実に確保されていること ・ 日本食の素晴らしさが広まること ・ 学校、福祉施設や企業食堂の給食での府内産農林水産物及びその加工品の利用量や利用率が向上すること ・ 府内産農林水産物やその加工品を優先的に扱う販売店・ブースが増えること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都文化を授業科目に取り入れる ・ 「地産地消」や「旬産旬食」の取組
<p>人々の営みや伝統文化を映しながら京都の各地で守り育てられてきた景観などの地域資源を愛する心を育み、次世代に引き継いでいく方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「空の大きな街づくり」をキーワードとした景観を活かしたまちづくりを推進 ・ 中山間地域では、棚田・里山の維持、伝統文化の継承が困難 ・ 景観の視点からの文化・環境政策 ・ 見えている景観と、見えていない景観をどうつなぐか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の伝統文化や人々の生業を活かした景観を守り育て、景観を活かしたまちづくりを推進すること ・ 中山間地域の生活基盤を整備し、地域振興を推進すること ・ 都市と農村やNPOと地域の交流を推進し、文化の多様性を図ること 		
<p>歴史遺産や文化、芸術・芸能、人文社会系の学術研究など、ポスト工業化社会で価値が高まる資源への投資を見直し、経済社会で有効活用する方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府民だけでなく、文化は広域で考えるべき ・ アウトサイダーアート（限界芸術）による地域の活性化 ・ アーティストと社会の間の「と」や「間」を大事にし、関係性を築くアートマネジメント ・ 若者に伝統を伝えながら他方で魅力を感じさせる伝統文化のシステム化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特色ある文化資源を相互に結びつけ、広域的観光資源にすること ・ 技術、意匠・古典等の知的・文化的資産を活かした製品やブランドを創造しつづけること ・ 京都文化に受け継がれている自然と共生し、精神性豊かな価値観を国内外に発信すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に根付いた知的・文化的資産を活かした産業が興盛されるとともに、新しく生まれ出ていること ・ 環境共生文化スタイル（京都スタイル）が提唱、普及されること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域振興局毎に文化観光ルートマップ（古典ゆかり、文化財、伝承、伝統芸能、祭り）を作成